

函館のまちづくりを考える はこまち通信

Vol.

43

2018年1月

発行/函館市地域交流まちづくりセンター

函館てらこや

特集 P2~3

このページを
チェック!

~いろんな世代があつまる“集落”をつくりたい~



特集 P4

函館山に導かれ、移住しました。

特集 P10

函館市地域交流まちづくりセンター
10周年記念企画
「まちセン御三家に聞きました(未来編)」

特集 P11

コーチングワークショップ函館
「救命講習会の開催レポート&お知らせ」

今号の市民活動団体

① 特定非営利活動法人 のぞみ会 北海道支部 函館地区会

② 特定非営利活動法人 みんなのさぽーたーわっとな



函館てらこや 学生スタッフ

函館てらこや 代表

古館 葵 大野 誠二

古館 葵 [プロフィール]

北海道教育大学函館校4年
第5回大門合同学生祭実行委員長、Code for Hakodate代表
現在は函館てらこや事務局長
卒業後は函館市内にて勤務予定

【聞き手】函館市地域交流まちづくりセンター
センター長 丸藤 競

大野 誠二 [プロフィール]

1976年7月12日生まれ。
日新中学校、稜北高等学校、中京大学(中退)
株式会社Bande代表取締役、函館てらこや代表、
稜北高等学校同窓会 副会長

今回は、ことし5月から動き出した「函館てらこや」の活動について、
代表の大野誠二さん、学生スタッフの古館葵さんにお聞きしました。

対談

丸藤 函館てらこやは、どのような活動なんですか？

大野 高龍寺梁川法務所をお借りし、子ども達から高校生、大学生、大人が集まり、遊び・学び・食事・作法を通してつながっていく場所です。

丸藤 私も先日、参加させてもらいました。ゲームをしたり、みんなで一緒に食事をしたり、お坊さんからの話を聞いたりしていましたね。平成29年の5月から始まったとのことですが、何かきっかけはあったのですか？

大野 私の先輩が全国てらこやネットワークの理事をやっております、その導きで大西理事長の話を聞いたり、横浜の活動を見たことです。函館でも形にしようと思いました。

それと、函館のことを考えてる学生と出会ってしまったのも、私が変わるきっかけになっています。こんなに函館のことを考えてくれてるのに、なぜ卒業したら残らないんだろって、てらこやという居場所ができたなら、残って来て活性化にもつながるのではと思います。

特集

はこまち対談

「いろいろな世代があつまる
”集落“をつくりたい」



古館 私は横浜でらこやを2回見ました。普段子ども達と関わる機会がありませんので上手く接することができると不安はありましたが、この活動はしたいなと思いました。

丸藤 現場では、大人から大学生、高校生までが活き活きとそれぞれの役割を行っていて、とても楽しかったです。

大野 毎回でらこや終了後に行う振り返りに時間を費やしています。最初の頃、学生さんなどはあまり物事を決められませんでした。それで「発言するなら責任を持って実行しましょう。否定ではなく、未来のために行動すると肝に銘じて発言しましょう」と言わせてもらいました。そこにしがみついた学生が、今、「アメンバーになっていてやっと形になり動き出してきた」と感じています。

それと、今日は満足だけじゃなくて収まりたくなさそう話もしています。学生さんと朝まで語り合っこともざらにあるんですよ。熱は逃したくないので。

古館 朝まで一緒にいても苦にならないというか、楽しいです(笑)。それに学生は下の代に引き継いでいかななくてはならないので、そういう意味からも振り返りは大切だと考えています。

大野 朝まで語り合うのは、その時間がつくる信頼感を産むためです。これを、後輩達にもやっつけていこうと言っ

ます。

丸藤 子ども達の場ではありませんが、学生さんの成長の場にもなっていますね。

大野 大人スタッフの熱いサポートがあり、学生がのびのびできる環境がうまくできています。

丸藤 高校生の活躍ぶりも凄いですね。子ども達と一瞬で仲良しになってました。

大野 学生はまず頭を使って分析するんです。でも、高校生は純粋というか目先にあるものに瞬発的に本能で取り組むんです。その辺りは、大学生が学ぶべきものだと思います。

今はまだ参加のない中学生や、おじいちゃんおばちゃんにも来ていただく、各世代がそろって集落になります。そこでお互いの顔が見えて信頼しあえて相談できたりするようになる、ひとつの完成形に近づけるのかなと思っています。

丸藤 色んな世代の方が集まると、自然と広がっていきそうですよね。

大野 企画したもののだけではなく、そこに居るだけでもためになることがある場所になればいいですね。

丸藤 今は学生さんが中心になって企画運営していますね。

古館 やっと、先のスケジュールを見ながら動けるようになってきたところですよ。

大野 やりたいと言った学生達には、

責任と覚悟がないのであれば止めましようと言っています。大人の「コマになるの」じゃなくて、自分たちが必要だと思っただことをやり続けましよう。

年齢や立場に関係なく自分が正義だと思つ事を主張して欲しいです。

でも、自分本位じゃなく相手の気持ちを受け止めたうえで発言ができるようになってもらいたいですね。

古館 大野さんには、大学の授業では考えない視点などからも掘り下げてもらっています。

丸藤 毎回、たくさん学生スタッフが集まるんですね。

大野 大学生、高校生合わせて30名くらいですか。年回ならともかく、毎月なんてあり得ないくらい凄いです。

丸藤 お寺のお坊さん達の協力内容も素晴らしいですね。

大野 永井住職は、お寺というのはそもそも人が集まる集落の中心だったというのを凄く大切にされる方で、気軽に集まれる場所と思つて下さっています。それで、てらこやさんに場所を貸します好きに使ってくださいと、あり得ないくらいの好意と理解をいただいています。今では、仲間として頼るパートナーになっています。

丸藤 大人数で一緒に食事をしたのも楽しかったです。

大野 担当者のこだわりで道南の食

材を使うようにしています。食器は、廃業される旅館からいただくことができました。

丸藤 これからの夢は、

大野 子どもを育てていくうえで大切なのは優しくさかなと思つています。各世代が集まり触れ合う中から育つていくような集落にしていきたいですね。

古館 学生スタッフが卒業した後でも、てらこやがあるから函館に帰つてみようかなと思える、振り返られる場所になればいいなと思つています。

丸藤 集落なら、まさに故郷ですね。

古館 学生のボランティアは、たとえ1日だけの参加にしろ、もつとこうしたいと思つている人の集まっている場というのが凄く強みだと思つています。まだまだ伸びる幅があります。だいたい月末にやっているので、一緒にやってきたという方をお待ちしています。

大野 何かひとつでも興味があれば足を運んで欲しいです。そこで色々と感じてください。年齢は関係ありません。大人のスタッフも絶賛募集中です。みなさんでつくりあげていくものだと思います。

次回は平成30年
1月25日開催
高龍寺梁川法務所
で17:00~受付です

問い合わせ先
080-1668-9472
(担当:古館)
haodate.terakoya
@gmail.com

移住サポートセンターより

函館に移住された方をご紹介します。

函館山に導かれ、 移住しました。

今年、雪の降り始めが早いそうです。真白に雪化粧した函館山を眺めながら心躍らせる毎日です。

私は三重県に生まれ学生時代までを過ごし、東京で20年生活し、今年、主人と猫2匹と共に函館に移り住みました。移住してまもなく1年が経とうとしています。よく「親戚がこちらにいるの？」と尋ねられますが、函館には何の縁もゆかりもありません。主人も東京生まれ千葉育ちです。

私達(当時は結婚前)が初めて函館を訪れたのは2013年5月のこと。もともと主人は若い頃に仕事で札幌に来て以来、大の北海道好きだったので、函館は約20年ぶり。私は旅行と言えば沖縄ーと言っただったので、初めての函館でした。

ひと目で函館を気に入り……、と言いたところですが、正直、空きテナントだらけの街に「大丈夫？」というのが第一印象でした。しかし、じわりじわりと函館の街の美しさをやったりとした空気感に魅了されていき、

1泊2日を過ぎて帰るころには「また来たいな」と思うようになっていました。(余談ですが、私が沖縄を好きになったのはのんびりした雰囲気なのですが、函館にも同じようなものを感じました。「島時間」ならぬ「函館時間」があるような……)

すっかり函館が気に入った私達は、翌年冬にもまた来函。さらに年に1度では飽き足らなくなり、年に2度、3度と足を運ぶようになりました。クリスマスファンタジーには3年連続訪れており、市場で年末年始の買い物をするのが恒例行事。初めて来た時から必ず立ち寄る居酒屋には「ただいま」と挨拶するようになっていました。

そんな私達は2016年4月に結婚したのですが、その時主人が冗談半分で言い出しました。「本籍地を函館山にしよう」と。私もただ面白いからという理由で即賛成。函館市役所まで行き、窓口のお姉さんにキョトンとされながら実行しました。ついでの新婚旅行として渡島半島を一周しました(笑)。

何がそこまで？と聞かれてもうまく説明ができませんが、それくらい私達は函館が好きで、もはや夫婦共通の趣味であり、「いつかは函館に住みたいね」が合言葉になっていました。

そして結婚から半年後の2016年秋、運命の出逢いが訪れます。函館

山(本籍地)を見上げる現在の家を見つけたのです……。そこから移住までわずか2か月。今思えば、函館山に導かれたような気がしてなりません。いつも面白いなと思うのですが、東京から移住してきたと言っ私達への函館の方の反応は真つ二つに分かれます。「目は「ようこそ」よく来たね」というもの。そしてもう二つは「ちょっと眉をしかめて」「どうしてこんな何も無いところへ？」というもの。

確かに最先端のショップや遊ぶところは「何も無い」のかも知れません。でもここには、それに勝る素晴らしい宝物が山ほどあります。さらに「何もない」こと、それも魅力の一つだと言えると思います。函館に生まれ育った人は当たり前すぎて気が付かないのかも知れませんね。(もしかすると、シャイな函館人の照れ隠し……)

外から来た私達だから気づく函館の宝物はまだまだ潜んでいるはず。これからもそれらを少しずつ見つけていき、いつまでも「函館大好き」、「趣味は函館」な夫婦でいたいと思います。

さて、そんな私は今、函館で何をしているのかと言っと、ガラスの器を作っています。東京ではT系の仕事をしており、仕事の後や休日だけ制作活動をしていましたが、函館移住に機に、アトリエを構え、ガラス作家を本業とさせてもらっていることになりました。

函館で暮らすようになってから、ガラスのモチーフにしたい！と思う美しいものや素敵なものにたくさん出会い、ワクワクしています。今はまだ、東京で作っていたものの延長での制作が中心ですが、今後は函館らしいもの、函館にいるからこそ作れるものを、たくさん生み出していきたいです。そんな私のガラスで、微力ではありますが、函館の魅力を発信していきたいなと思っています。



※イカが泳ぐ海のガラスプレートです。今年初めて函館港まつりで「いか踊り」を見て、函館人のイカ愛に感銘を受け制作しました。

この冬から「はこだて工芸舎」様でのお取り扱いが始まりました。お近くにいらした際は、ぜひお立ち寄りください。また、アトリエ兼自宅の一角に、ずっと憧れていた予約制ギャラリーをオープンしました。興味を持っていただけましたら「美鈴硝子」で検索して、Webサイトをご覧ください。けたら嬉しです。

<http://misuzu-glass.com/>

美鈴硝子 田中美鈴



この10年で消えたもの

謎の遺物

つい先日まで、末広町の西波止場横にこんなものが残っていたのをご存じですか。いったい何なのか。約10年前、旅行者として函館に来ていたころから気になっていました。

どうもカーフェリーのゲートのようです。西部地区からフェリーが出ていたという昔話も聞きました。なのに自分でも不思議なことに、フェリーはどこ行きだったのか、いつごろの話か、には無頓着でした。



西波止場の謎の遺物(後ろは緑の島)

仰天の正体

さて、近ごろ何度か大間行きフェリーを利用しました。船内には、「ノスタルジック航路」と称するこの航路の紹介パネルがありました。

函館と大間の間にフェリーが就航したのは、昭和39(1964)年とのこと。パネルには「昭和46年の大間―函館時刻表」もありました。見れば何と、1日15往復、真夜中も休まず、24時間態勢での運航です。

現在は1日2往復。当時は津軽海峡をはさんだ函館と下北の間に、今からは想像できないような人やモノの行き来があったということです。

帰って早速、運航会社のホームページやネット版『函館市史』を調べましたら、当時の写真も載っていました。函館での車両積みおろし風景もありました。バックには金森倉庫の屋根



ボーディングブリッジも残っていたが



きれいに撤去された大間フェリーの痕跡

が見えます。まさに、西波止場横で見かけ気になっていたフェリーのゲートの現役時代の姿です。

ここが黄金時代のフェリー乗り場だったとは驚きでした。開設は昭和43年、ターミナルが七重浜に移転する昭和51年まで、ここが大間への玄関だったこともわかりました。

もつと下北

西波止場付近では護岸改良工事が進行中です。前に見たとき、このゲート跡も柵で囲われていました。

やがて撤去されるかもしれない。虫の知らせというのでしょうか、11月4日の朝7時、ふと気になって行ってみたら、目の前に背の高いクレーンを積んだ船が来ていました。

9時過ぎに再び行くと、ゲート跡も、一緒に残されていたボーディング

ブリッジも、きれいさっぱり消えていました。

現場には工事関係者以外の人影はなかったのです。ニュースにもならなかったと思います。ひっそりとした最期です。思い出すのは平成21(2009)年、函館どつくのゴライアスクリーンが撤去されたときのこと。みんな大騒ぎしていました。

函館・大間はわずか1時間半、運賃も新幹線で青森に行くのとは比較にならないほどの低価格。これまでの自分を柵に上げて言うのも何ですが、この航路がもつと注目されてもいよいよに思います。

大間側では通院、買い物などに、函館はまだまだ欠かせない土地だそうですが、函館側の関心は、もつぱら原発ばかりの感があります。でも、大間そして下北は、観光地としても魅力がいっぱい。

海路による青函交流も、趣があったというのではないうでしょうか。

★プロフィール★

おおにし つよし
大西 剛さん

1959年生まれ、大阪出身。
2011年秋より函館に移住し、「新函館ライブラリ」を設立。通り一遍の観光客ではなく、コアな函館ファンに訴えるような函館本の出版に取り組む。本年は、スマホに頼らず函館情報を携帯できるよう、既刊の本格的函館案内書「市電でめぐる函館100選」を分冊・豆本化。

NPO・市民活動団体紹介のページ

特定非営利活動法人 のぞみ会 北海道支部 函館地区会

■どんな団体？

変形性股関節症という病気について、近年、新聞や雑誌などにも取り上げられるようになりましたが、まだまだ身近な情報が少なく、悩んでいる人も多いようです。のぞみ会はそのような方々が快適な生活を送れるよう社会にも働きかけていきたいと思っており、情報交換をしながら前向きに生きて欲しいとの願いから、1986年6月に発足させて以来、毎年6月の総会、専門医の医療相談、会員の交流会などを重ねております。

■団体のPR

のぞみ会は本部が東京にあり、北海道支部には函館、旭川、小樽、オホーツク、帯広、札幌の六カ所に地区会が置かれています。函館地区会は、4月～11月の毎週第3日曜日に交流会があり、意見交換やリハビリ学習会、プール学習会などの色々な内容で若松町の総合福祉センター(あいよる21)にて開催しております。また、まちづくりセンターで行われておりますNPOまつりにも参加させていただいております。股関節疾患に悩む患者および関心のあ

る一般市民が互いに体験を交流したり、情報交換したりしながら助け合おうと共に正しい知識を高め、社会の理解を深めるよう活動しております。



『リハビリ学習会』
理学療法士による
講義&実技指導



『水中運動学習会』 講義の後はプールで!!



■会員募集など

入会金1,000円
年会費3,000円

会員になりますと、年6回の会報『のぞみ』が配布されます。

総会、交流会、医療講演会に参加でき、専門医による医療相談が受けられます。

お問い合わせや入会希望の方は、函館地区代表・富原までご連絡下さい。

■これからの活動

変形性股関節症をかかえている方々に、「のぞみ」をもって生きていけるよう、会員相互の交流や最新の正しい情報を収集発信しながら、患者会として、活動を続けて行きたいと思っております。



新年度顔合わせ交流会

特定非営利活動法人 のぞみ会 北海道支部 函館地区会

■代表者名/富原 ふじ子 ■会員数/37名
■電話/0138-43-1446 ■FAX/0138-43-1446

NPO・市民活動団体紹介のページ

特定非営利活動法人 みんなのさぽーたーわっとな

■どんな団体？

障がいを持つ子供たちが、地域の人たちと手を取り合い、共に助け合いながら、地域で自立できる場を少しずつ広げていくことを目的に障がい児の母親達と心優しいサポーターが集まりました。

2006年に「みんなのさぽーたーわっとな」を市民団体として設立し、障がい児の見守り事業を始め、2007年にNPO法人格を取得しました。

■団体のPR

当法人では、放課後児童クラブらるで、児童デイサービスすきっぷ、児童デイサービスらびす、児童デイサービスぶれお、生活介護事業所ぶれおプラスの5つの事業所で支援・サービスを行っています。

らるでは小学1年生～6年生、すきっぷらびすぶれおは小学1年生～高校3年生、ぶれおプラスは18歳以上の方が対象の施設となっており、利用者の方ひとりひとりに合わせた活動を考え、提供しています。

また、親子レクリエーションや会員向けの研修会の開催、地域バザーへの参加のほかに、親子一緒に楽しみながらストレッチ・

ダンスなど無理なく身体の使い方を学ぶ「わっとなクラブ」も開講しています。



活動の様子



親子ボウリング大会

「わ」(わたし)と「な」
(あなた)地域のみんな
が素敵なパートナー

■会員募集

正会員 年会費3,000円
会員資格 障がいを抱えるお子さんを持つご家族

賛助会員 年会費2,000円(二口)

地域の皆さん全員が素敵なパートナーです。

是非とも暖かいご支援をよろしくお願ひします。

各施設の見学も随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

■これからの活動

2018年最初のレクリエーションとして、2月に親子ボウリング大会を開催する予定です。わっとなでは一年を通して季節ごとのレクリエーション(夏まつり、函館山登山、クリスマス会など)を開催しています。



わっとな作品展(金森赤レンガ倉庫)

特定非営利活動法人 みんなのさぽーたーわっとな

■代表者名/山口 照美 ■会員数/74名
■電話/0138-86-6515 FAX/0138-86-6515 ■メール watona@opal.plala.or.jp
■ホームページ http://wattona.net/

NPOワンポイントアドバイス!

組織にとって、「会議」は切り離せません。
 だからこそ、会議のタイプ別攻略法を知っているかどうか、運営には欠かせません。
 前回は会議の10のタイプについてお伝えしました。
 今回からは、タイプ別に具体的な攻略法をお伝えしていきます。

1. 顔合わせ会議

〈団体やプロジェクトを始めようとする時の1回目の会議の攻略法〉

初対面の人同士だったり、これからどのような進め方になるのか等が分からないので、参加者は緊張しています。従って、緊張をほどよく解いていくことと、これからの進め方についての土台づくりが必要になります。

攻略法①

自己紹介を効果的に活用しましょう。単に、「〇〇(団体名など)からきた××です」ではなく、「なぜ、このプロジェクトに参加しようと思ったか?」や、「活動の原点」を話してもらうとその後の意見交換の素材が生まれ、個人的な趣味・特技・好きなことなどからは話題が発展しやすくなります。いきなり大勢の前で話すのではなく、まず周りの2~3人で自己紹介しあうことで参加しやすくなる場合もあります。

攻略法②

異なるセクターが集う会議の場合は、今後の進め方や雰囲気について共通認識を決めることも大切です。比較的慎重にゆっくり決めていくのか、リーダーにある程度権限を委任していくのか、など、1回目の会議で土台づくりをしましょう。

2. 定義を定める会議

〈組織やプロジェクトの重要な概念や、定義、組織名、目標などを決める会議の攻略法〉

この会議に参加することで、メンバーは自分たちの組織の役割や意志を確認し、自分自身がどう関わっていくのかを決めることになります。つまり、決定に参加することで当事者意識が強くなるという、重要な会議です。

攻略法③

「アイデア出し→案を絞る→最終決定」の各段階で、(過度の負担にならない程度に)参加者の枠を広げていくことも効果的です。

攻略法④

組織の理念や目標は、高尚過ぎる言葉ではなく共感を生む表現にしましょう。

参考:青木将幸著『市民の会議術 ミーティング・ファシリテーション入門』ハズオン埼玉出版部



センター長のつぶやき

まちづくりセンターセンター長 丸藤 競

SDGs(エスディーゼズ)という言葉を知っていますか?日本語では、「持続可能な開発目標」と言います。でも、これだけ聞いても何のことか分からないかもしれません。

貧困や格差の拡大、環境の悪化など様々な課題が世界規模で深刻になっています。このままでは地球がもたないということで、日本を含め世界193か国の指導者が集まり、世界をつづけていくために2030年までに達成しなくてはならない17の目標、169のターゲット、230の指標を採択しました。それが

SDGsです。貧困のない世界を目指すことを一番の軸に、「誰ひとり取り残さない」を合言葉にしています。社会・経済・環境の三側面が包摂されていて、世界を共通の物差しで測り様々な活動をつなげていくことで、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」に「将来よし」「地球よし」の2つを加えた5方よしにしていくことが、大きな理念になっています。

壮大な夢物語のように受け止める方もいるかもしれませんが、成功のカギを握るのは私達市民の意識です。SDGsは法的な枠組みではありません。だからこそ、その国の市民ひとりひとりができることを行い、不断のプレッシャーをかけ続けていかなくては意味がないのです。市民が行動するだけでなく、行動してそれが世界に反映される時代をつくる。SDGsは、その道具になるとも言える新しい取り組みです。



▲和紙人形カード



▲いか姫の癒しカレンダー

福祉の店 どんぐり 2号店

(まちづくりセンター1階)

団塊の世代が青少年時代を振り返ると、話題になるのが函館駅前に開業した「棒二森屋」の存在でした。近代的なデパートは多くの市民を集め、今日に至ってきました。閉店は函館経済としては大きな損失になるでしょう。同じ世代が青春時代を過ごしていた時に、十字街から本町に移転したのが「丸井今井」です。西部地区の斜陽化を急速に進めていったのではないのでしょうか。この西部地区を活性化しようと様々な活動が続けられてきました。その活動の中心になっているのが「まちづくりセンター」なのです。「丸井今井」店を解体せず、水道局等で活用してきた函館市や地域商店街等の努力を改めて感じるものです。

この「まちセン」では、福祉の店どんぐり2が開店していますが、各障がい者施設では、活き活きと作品の制作をしています。ぜひお立ち寄りいただき、作品を手にとって見てください。

■営業時間 / 10:00~16:00

■定休日 / 土・日曜日・祝日

製品は、函館市総合福祉センター1階・函館市役所地下売店でも販売しています。

《新年のご挨拶にかえて》

2017年はまちの変化を感じた年でした。新しい施設や新しいタイプのお店がたくさんでき、どんなことに出会えるのかワクワクしました。ワクワクは今も続いています。一方で、お世話になったり好きで通ったお店の何軒かが営業を終えました。新しい展開、業務のスリム化、オーナーの引退…理由はさまざまですが、楽しい時間を思い出しながら、新しい気持ちになりますね。それぞれに、閉店直前、たくさんのお客さまが別れを惜しみに訪れたそうです。名残り惜しいですが「これまでありがとうございました。」の気持ちで見送ります。新しい年、今年もお客さまをお迎えできることに感謝します。健康で、笑顔で過ごせる一年でありますように。

《紅茶の価格を改定します》

紅茶の仕入値がかなり上がりました。送料も上がり、これまでの価格では難しくなってきました。心苦しいのですが、少し値上げさせていただきます。

セイロン 380円⇒400円

ミルクティー 430円⇒450円

紅茶好きの皆さまにはご迷惑をおかけします。当店では紅茶をおいしく召し上がっていただくために、ポットマットとティーコージーをセットしてお出しています。2杯目も熱々です。ゆっくりとティータイムをお楽しみください。お湯のお代わりもご遠慮なく。

《植物染めのこと》

私の好きなことのひとつが「染め」。年に数回、厚沢部町の工房に行き植物染めを教わっています。これまで栗のイガ、アカソ、黒米、生葉藍、アメリカセンダングサなどで染めてきました。同じ植物でも、染める繊維や媒染液、浸け置き時間などによって全く違う色合いになるのが不思議で面白いです。染料に浸けこむ間に持ち寄りランチをするのもこの工房の楽しいところで、おいしい漬物や知らないまちの郷土料理や、簡単でおいしいおやつや作りかたなど情報交換して、料理のレパートリーも増えました。自宅でもときどき「自習」をします。ハンドピックしたコーヒー豆、いちごやブルーベリーは虫食いや傷んだハネの部分を使って、玉ねぎの皮もよく染まります。媒染液も重曹や酢などキッチンにあるもので、上の欄に書いた紅茶のポットマットもそんな自習の産物。羊毛フェルト作家さんの工房にお邪魔して、メリノウールを洗剤液の中で丹念にこすりマットを成形。家に持ち帰って染めました。鮮やかな黄色のマットは賞味期限切れになってしまったターメリック、薄い草色のは庭のヨモギです。紅茶をご注文の際はぜひポットの下もご覧くださいね。

cafe DripDrop★米田尚子

cafe DripDrop

カフェドリップドロップ



羊毛フェルトのポットマット。色は実物でお確かめください

■営業時間 / 10:00~18:00

■定休日 / 水曜日

ホームページ

<http://handpick.cafe.coccan.jp/>

「まちづくりセンター10周年企画」
「まちセン御三家に聞きました！」

函館とともに歩んできた函館市地域交流まちづくりセンター。2007年4月開館以来、多くの方に支えられおかげさまで10周年を迎えることができました。

10周年を記念する企画として、函館の市民活動とまちづくりセンターにスポットをあて、3編構成にて、みなさんにご案内します。10年を振り返る過去編(前々号)、函館の今、現在編(前号)、これからの函館、未来編をお届けします。



開館以来、10年まちづくりセンターを支えてきたスタッフ3人(丸藤競(センター長・写真中央)、横内輝美(左)、

澤田石久巳(右)に、聞きました。

スタッフに求めるもの！

丸藤 指定管理業務が10年、20年たつてくると、単なる就職先として入ってくる人が出てくる可能性があります。NPOというのを掲げて、活動しているんだから、先人たちが築きあげてきたことを考えて活動したり施設運営をしていかないと、将来違う方向に行ってしまう。

指定管理や委託を受けた人たちは、最初のころは、哲学があり、その哲学に基づいてプログラムを考えて、事業をやったりして、組織の運営をしてきました。

ところが、10年、20年たつてくると、哲学もなくてプログラムもなくて、単なる仕事としてやっています。それでは役所がやっているよりもっとクオリティが低くなるし、もっと安い値段段でやらされます。そうなる、安くて、クオリティが低いものしかできなくなりますが、それは、よくないですね。

様々な分野に対し、提言できるものをもつた上でいろいろな活動をしていかないね。

横内 根本的な論議がされていないのと一緒に、このまちづくりセンターの基本はどこなんだろうなって、常に話していかないとけないのかな。

丸藤 基本的な知識は持っていてほしい。それは、各人が自分自身で気がついて、そうかと思ってもらうしかない。

澤田石 センター長が話したように、

志||基本的な部分を我々はもつともつと勉強していかないとね。まちづくりセンターは志のあるような人を見つけながら修正をしていって、従来のスタートした時のものを重ねて、重ねていってそれを長い伝統にして、我々がいなくなつてもそれが伝統で残る。いいところだけが残る。そうするとより一層いい方向に向かつていくので、盤石なまちづくりセンターになると思います。

才能の引き出し方・・・

丸藤 若い人たちに対しても支援ができる体制を整えていく必要がある。そのためには、基本的な知識のベースがないとできない。若い人たちはものすごく可能性があるので、その可能性をどうやって伸ばすかが大切です。

人の持っている可能性には無意識と意識があり、アイデアや優しさなどの才能は、はじめは無意識の中にあることです。無意識の中にあるということ、本人も気がついていない。そこに何らかの形で光を照らすと無意識から意識するようになり「やるぞ」と自分から動くようになります。

どうやって無意識の中にあるすごい要素をすく上げていくかという、それは一方的な命令とか指示では逆効果なので、促すような会話や質問をしていって、本人に気づいてもらうのが効果的です。

これからは無意識の中にある才能にスポットライトを照らせるように、コーチングの基本のようなのもスタッフが

学ぶ必要があると思います。

澤田石 いろんな方と接触すると体感の中であるほど！ということがなんとなく、自分自身で気づきますね。

丸藤 人から命令されたら、やりたくないけど、自分で気がついたらやりたくなります。そういう風な促してみたいのができる施設になっていきたいですね。難しいですけど。

横内 促すときには、一緒にやんなきゃね！

10年後の自分にひと言

・体に向けていってください(丸藤)
・みんなに挨拶をしてもらえる人になりたい(横内)

・志がある若者を育てたいし、若者の役に立ちたい(澤田石)

あとがき

今号で、10周年記念企画「まちセン御三家に聞きました！」は、終了です。函館の市民活動とまちづくりセンターにスポットをあて、約1年かけて、10年前から、10年後の未来までを話してきました。いかがでしたか？感想をお聞かせください。

(聞き手 谷口 真貴)

これまでの10年、これからの10年、同じ情熱で！

これからもまちづくりセンターをよろしくお願ひします。

市民活動団体からのご案内

2016年8月から市民活動団体として新たにスタートしました。

コーチングを通して更に良いコミュニケーションを実践するため学びあう仲間のコミュニティです。

・どんな活動を行ってきたか？

定例会で取り扱う主な内容は、コミュニケーションを構成する知識・スキル・ツール等を取り入れゲーム等を取り入れながら学んでいきます。

スペシャル企画に東京などで活躍している著名な講師に登壇いただき、デモンストレーションや体験を交え、コーチングに関する最新情報提供させていただきます。

・コーチングで得られるものは？

NPO団体が集まる「NPOまつり」に参加し、人の思考や行動様式を4つのスタイルに分けた「コミュニケーションスタイルの診断」を来場者の方に体験してもらいました。

親子で体験したママさんは「こんな傾向を持った子なんだ」「こんな言葉をかけるとヤル気が出るんだ」などお子さんの行動を振り返って納得した様子でした。お子さんはママの行動パターンを知ってどうやったら怒られないかに気づいたようです。

ちょっとコツを知ると、この親子のように今以上に目の前の人に興味を持ち「今、最も必要な関わり方はなにか？成長や成功のためにどのように働きかけると良いのだろうか？」という視点を持つことが可能となります。

その他主にコーチングで得られる成果

目標が達成できる。自分を大切にできるようになる。

**コーチングをベースに学ぶ、人と人を
つなぐ虹の架け橋。あなたの個性を
いかし、体験から学びを深め成長する。**

コーチングワークショップ函館

■代表世話人／江口文明

■事務局／松浦千慧

■会員数／30名程度

■電話／090-1640-7761

■メール／cwhakodate@gmail.com



QRコード

自己理解が深まる。自分の新たな才能の発見。考えがまとまる。本当に必要なもの。人間関係が改善できる。仕事と家庭など、生活のバランス。

あなたも一度コーチングを体験しませんか？

ワークショップ開催は？

毎月1回土曜日もしくは日曜日の13時～17時に開催しております。会場は概ねまちづくりセンターです。参加メンバーは、カウンセラー、オーガナイザー、企業勤務のマネジメント職、一般の方など幅広く、現在、30名ほどの会員様と開催しています。

年会費はありません。参加費は毎回2000円程度、参加予約はFacebookもしくはe-mailでご連絡いたします。

お問い合わせや申し込み等は江口または事務局までご連絡ください。

☆2018年度より初参加の方は、初回の1回に限り半額にて受講できますので事前に事務局までご連絡ください。



スペシャル企画にご登壇いただいた主な講師。

<自己理解・チームビルディング>

株式会社フォーサイド 代表取締役社長

東田 ひとり さん 「なぜコーチングが機能するのか？」脳科学と心理学の観点から

ストレンクスファインダーセミナー

西 素直 さん 「自分の思考・感情・行動のクセを知る！」CTI認定プロフェッショナル・コアアクティブコーチ (CPCC) 生沼 隆史 さん 『知らなかった、幸せを〇〇倍にする方法』

<教育関連>

株式会社コーチングプラス 代表取締役

石谷 二美枝 さん 親子の絆を深めるコミュニケーション講座「やってみようコーチング！」

日本ペアレンティング協会理事 生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチ

石川 りつこ さん「子どものやる気と本音を引き出すコーチング～今から築く信頼関係～」

<心理関連>

マスターライフオーガナイザー

岩崎 美乃 さん 『スッキリ暮らす！モノとこころの整え方』

施設利用料金

税込(円)

階	会場名	面積	参考レイアウト		基本料金	
		m ²	形	席数	単価	金額
2階	多目的ホール	272	シアター	約100	1日あたり	10,000円
			スクール	約60		
	研修室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	500円
			スクール	約30		
研修室C	24	シアター	約30	1時間あたり	500円	
		スクール	約20			
3階	会議室A・B	50	シアター	約50	1時間あたり	300円 (一般利用500円)
			スクール	約30		
	会議室C	24	シアター	約30	1時間あたり	300円 (一般利用500円)
			スクール	約20		

※会場には、テーブル、イス、ホワイトボード、空調設備を備えています。※駐車場/2時間無料、超過30分までごとに100円
 ※営利目的(入場料を徴収したり、物品を販売するなど)で使用する場合は、割増料金となります。

備品利用料金

備品名	利用料金
音響機材(研修室・会議室用)	1,000円
音響機材(多目的ホール)	2,000円
プロジェクター	1,000円
スクリーン	500円

※その他、設備等については、ご相談ください。

活動支援費 要相談 **1,000円**

印刷機使用料金 ※用紙代別

- ① 製版代/1枚……………100円
- ② 印刷枚数/10枚まで……………10円
(以後10枚毎に10円加算となります。)

※例) 12枚/20円、137枚/140円、1543枚/1,550円です。
 ※①製版代+②印刷枚数が必要です。
 ※印刷用紙は各自でご用意ください。また、小銭のご用意をお願いします。

コピー料金

- ① 白黒/A4・B4・A3……………1枚 10円
- ② カラー/A4・B4……………1枚 50円
- ③ カラー/A3……………1枚 100円

横断幕プリント/ ポスタープリント料金 ※用紙代含む

- ① 610mm×1.5m……………1枚 2,400円
- ② 610mm×3.0m……………1枚 2,600円
- ③ 610mm×4.0m……………1枚 2,900円
- ④ 610mm×5.0m……………1枚 3,200円
- ⑤ A2版(420mm×594mm) 1枚 1,200円
- ⑥ A1版(594mm×841mm) 1枚 1,400円

※横断幕は文字原稿、ポスターはチラシ又はPDF形式で原稿をお持ちください。

■【各施設の使用申し込みについて】

- 利用日時、利用目的をご確認のうえ、TEL.0138-22-9700、または、函館市公共施設予約システムよりお申し込みください。
<https://yoyaku.e-harp.jp/hakodate/>

【お問い合わせ】



函館市地域交流まちづくりセンター

〒040-0053 北海道函館市末広町4-19

TEL.0138-22-9700 開館時間 AM9:00～PM9:00

FAX.0138-22-9800 休館日 年末年始(12/31～1/3) ※器材点検のため月1回程度臨時休館する場合があります。

ホームページ <http://hakomachi.com/> 函館 まちセン

【指定管理者】NPOサポートはこだてグループ